

## 尿膜管遺残症に対する腹腔鏡下手術の1例

なか 中 村 公 治 郎<sup>1)</sup>      すぎ 杉 本 真 一<sup>2)</sup>  
 とく 徳 家 敦 夫<sup>2)</sup>      ひら 平 田 彰 業<sup>3)</sup>

キーワード：尿膜管遺残症，腹腔鏡下手術，尿膜管臍瘻，尿膜管嚢胞

### 要 旨

尿膜管遺残症に対して腹腔鏡下尿膜管切除術を施行した症例を報告する。症例は23歳の女性，臍周囲の疼痛および臍からの排液があり近医を受診し，整腸剤などによる保存的加療を開始した。1週間経過しても症状が続くため腹部超音波検査を施行したところ，疼痛部位に膿瘍を指摘され同日当院救急外来を紹介受診された。CT (computed tomography)，MRI (magnetic resonance imaging)，膀胱鏡検査の結果尿膜管臍瘻と膀胱に近接する尿膜管嚢胞と判断した。排膿と抗生剤投与にて炎症の軽快を得た後，腹腔鏡下手術を行った。手術は気腹法，3ポートにて施行した。膀胱に生食および色素を注入し膀胱と正中臍索の境界を明瞭化させ Endo-GIA にて正中臍索尾側を切離，臍側は Endo-Loop にて処理した。術後経過は良好で，第1病日に食事を開始，第3病日に退院となった。尿膜管遺残症に対する腹腔鏡下手術は，美容的にも優れた有用な術式と考えられた。

### はじめに

尿膜管遺残症は，胎生期の尿膜管が出生後も管腔として存在している病態であり，臍・膀胱との関係から膀胱臍尿瘻，尿膜管臍瘻，尿膜管嚢胞，尿膜管性膀胱憩室の4つに分類される(図1)<sup>1,2)</sup>。尿膜管遺残症に対する手術は従来開腹下に行われてきたが，近年は腹腔鏡下手術の普及に伴って腹腔鏡下切除の報告が散見されるようになった。本

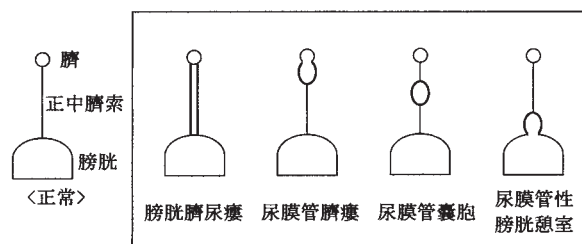


図1 尿膜管遺残症の分類

膀胱臍尿瘻：臍と膀胱が遺残尿膜管を通じて交通しているもの。出生直後の臍からの排尿として発見されることが多い。  
 尿膜管臍瘻：遺残尿膜管が臍のみと交通しているもの。繰り返す臍炎として発見されることが多い。  
 尿膜管嚢胞：遺残尿膜管が臍・膀胱いずれとも交通しておらず嚢胞を形成しているもの。  
 尿膜管性膀胱憩室：遺残尿膜管が膀胱のみと交通しているもの。

Kojiro NAKAMURA et al.

1) 京都大学肝胆膵・移植外科

2) 島根県立中央病院外科 3) 同 小児外科

連絡先：〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54